

今回はカタールのかつての主産業の真珠産業を紹介します。

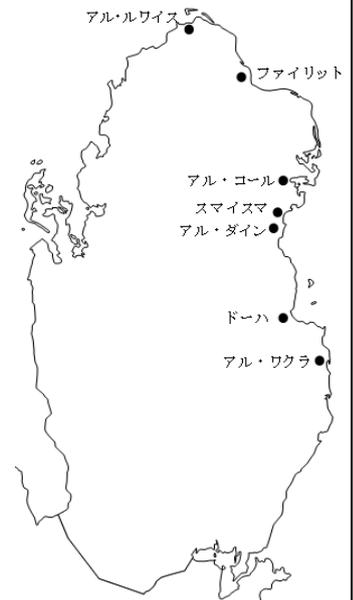
昔のカタールの真珠産業

今ではカタールは天然ガスや石油を主産業として成長している国ですが、それ以前は漁業、遊牧、真珠産業などを主産業としていました。昔はカタールにとって真珠は重要な輸出品でした。今でも町のいたるところに真珠のモニュメントがあり、カタールの象徴として扱われています。

カタールでは古くから漁業が盛んでした。各地の漁村にはたくさんの漁船がありました。右の地図にある都市名はカタールの昔の漁村です。現在の首都ドーハも昔は漁村として栄えていました。これらの漁村では漁業と真珠採りが行われていました。

カタールの真珠の歴史は古く、紀元前3000年～2000年の遺物が見つかっています。カタールはペルシャ湾有数の真珠の産地でした。天然の真珠を採るため、数が少なく、価格が高く、古代よりペルシャの王族の間で重宝され、貿易の品としても扱われていました。真珠産業は近年まではカタールの重要な産業でした。

しかし、突如カタールの真珠産業を衰えさせる出来事がありました。1905年に日本の三重県に住む御木本幸吉(みきもと こうきち)氏が新円真珠の養殖に成功し、値段の安い日本製の養殖真珠が世界に出回るようになったのです。そのため値段の高いカタール産の天然真珠は売れなくなり、真珠採りをする人は減ってしまいました。現在では真珠産業はなくなってしまいました。



昔の真珠採りの様子

カタールで昔真珠採りをしていた人のお話です。

真珠採りをしていたお年寄りの話

夏の3ヶ月くらいは海の上で真珠採りをして暮らしました。朝4時ごろから2時間置きに休みをとりながら、日がくれるまで働きました。3mから20mの海の底から貝をとってくるのですが、長い人は1回に5分間も潜っていました。空気ボンベはもちろん、足ヒレも水中メガネもなかったので、鼻せんと命綱、早く潜るための重りを身に付けて潜りました。船の上で貝を開くのも大変な仕事でした。500個の貝を開いて、真珠が1個も採れないことがありました。船の上が貝でいっぱいになることもありました。3ヶ月で3kgほどの真珠が採れました。食べ物は船に積んでいましたが、時々小さい船が売りに来たりしました。

養殖の真珠が世界に出回るようになってから、カタールでは真珠採りをする人が減り、今では、ほとんどなくなってしまいました。



真珠の重さを量る真珠商人



真珠の価格表



真珠の大きさを量る道具

真珠採りの船「ダウ船」

右の船は今でもドーハ港でたくさん見られる船です。昔は真珠採りの船として活躍したダウ船です。今では観光用として乗船でき、ドーハ港を遊覧することができます。



真珠採りをしたダウ船



観光用に改造したダウ船